



アマチュア農家の持つもう一つの意義

市民農園や体験農園は都会でもすっかり馴染んだ風景となった。土日だけでなく平日でも誰かしら農作業をしているのを見かける。こうして農業体験を重ねてきた市民の中には、援農という形で都市農家の手伝いをする人も増えている。これに対応して市や区、農協等で市民の農作業のスキルアップを図っていくためのコースや講座を設けているところも珍しくない▼農村部は勿論、都市農業でも高齢化や後継者難から担い手不足は顕著である。今、都市農業では市民による援農が担い手不足をカバーする貴重な役割を果たしつつある。援農という以上に時給をもらって仕事として行っている者も多いが、援農という形で時々収穫した農産物をお礼にもらうだけの者も少なくない。こうした援農をする人たちの中には本格的な農業を目指して農村部に移住して就農するケースも出始めている。市民の農業参画が担い手確保の一つのツールになろうとしている▼ここで見逃せないのが市民の農業参画は、アマチュア農業故に、経営にとらわれずに純粹に農作業を楽しんでいる者が多いことだ。農業は食料生産や多面的機能の発揮だけでなく、いい汗をかいての爽快感、農作物を収穫する喜び、土に触れ命あるものを育てる喜びをもたらす。これらはプロ農家にとっては縁遠い世界となってしまう、アマチュア農家だからこそ味わい、素晴らしさを発信することが可能だ。プロ農家はアマチュア農家の力を活用するだけでなく、一緒になって農業の持つ価値を発信していくことが必要な時代を迎えている。

(土着菌)